

イチゴ炭疽病、萎黄病の発生に注意しましょう

イチゴ炭疽病と萎黄病は、高温・多湿の条件で発生が多くなります。気象予報では、8月から10月にかけて平均気温は平年並または高くなる見込みですので、これらの病害の発生に注意し、防除対策を徹底しましょう。定植前に苗を厳選し、罹病株を本ばに持ち込まないことが重要です。

1 炭疽病

植物体の濡れ時間が長いと感染・発病が助長されます。かん水は午前中に行い、夕方には地上部が乾いた状態になるよう、かん水の時間や量を調節しましょう。濡れ時間を短縮でき、発病を抑制することができます。

(1) 炭疽病の症状



写真1 葉柄の病斑（左）、苗の萎凋（中）、定植後の萎凋（右）

(2) 炭疽病の防除対策

- ・ 胞子が雨やかん水のしぶきに混じって飛散し、伝染するので、頭上かん水は避け、できるだけ水の跳ね返りのないようなかん水を行う。
- ・ 発病してからの防除は困難なので、予防を主体に薬剤をローテーション散布する。
- ・ 発病株や感染が疑われる株は見つけしだい取り除き、嫌氣的発酵処理（抜き取った株を肥料袋等に詰め、空気を排出し口をしっかりと閉じて、日当たりのよい野外に放置する）後に処分する。

表1 イチゴ炭疽病に登録がある主な薬剤

(令和元(2019)年7月26日現在)

農薬の名称	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	有効成分の名称	有効成分を含む農薬の総使用回数	RACコード
キノドーフロアブル	500～800倍	散布	育苗期	3回以内	有機銅	3回以内	F:M1
ジマンダイセン水和剤	600倍	散布	仮植栽培期但し 収穫76日前まで	6回以内	マンゼブ	6回以内	F:M3
アントラコール顆粒水和剤	500倍	散布	仮植栽培期	6回以内	プロピネブ	6回以内	F:M3
ベルコートフロアブル	1000倍	散布	育苗期(定植前)	5回以内	イミノクタジナルベシル酸塩	【*1】	F:M7
オーソサイド水和剤80	800倍	散布	収穫30日前まで	3回以内	キャプタン	3回以内	F:M4
ゲッター水和剤	1000倍	散布	収穫開始21日 前まで	3回以内	ジエトフェンカルブ チオファネートメチル	6回以内 【*2】	F:10 F:1
サンリット水和剤	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	シメコナゾール	3回以内	F:3
セイビアフロアブル20	1000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	フルジオキシニル	3回以内	F:12
ファンベル顆粒水和剤	1000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	イミノクタジナルベシル酸塩 ピリベンカルブ	【*1】 3回以内【*3】	F:M7 F:11
タフパール	2000～4000倍	散布	育苗期～ 収穫前日まで	-	タラロマイセス フラパス	-	F:-
ファンタジスタ顆粒水和剤	2000倍	散布	収穫前日まで	3回以内	ピリベンカルブ	3回以内【*3】	F:11

*1 10回以内(育苗期は5回以内、本圃では5回以内)。ベルコートフロアブルとファンベル顆粒水和剤はイミノクタジナルベシル酸塩を含むため、両剤の使用回数は合わせて前述の回数となる。

*2 4回以内(種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)。ゲッター水和剤とトップジンM水和剤(萎黄病防除)はチオファネートメチルを含むため、両剤の使用回数は合わせて前述の回数となる。

*3 ファンベル顆粒水和剤とファンタジスタ顆粒水和剤はピリベンカルブを含むため、両剤の使用回数は合わせて3回以内となる。

※ RACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

2 萎黄病

病原菌は、根から侵入します。気温25℃以上で発病し、30℃以上になると多発します。

(1) 萎黄病の症状



写真2 葉の奇形（左）、クラウン部維管束の褐変（中）、収穫期の萎凋

(2) 萎黄病の防除対策

- ・発病してからの防除は困難なので、予防を主体に防除対策を実施する。厚壁胞子は耐久力が強く、土壌中で4～5年以上生存するので、前作に発生したほ場では、土壌消毒をしっかりと行う。また、土壌消毒を行った後、未消毒の土を混入しないよう注意する。
- ・発病株や感染が疑われる株は見つけしだい取り除き、嫌氣的発酵処理（抜き取った株を肥料袋等に詰め、空気を排出し口をしっかりと閉じて、日当たりのよい野外に放置する）後に処分する。

表2 イチゴ萎黄病に登録がある主な薬剤

(令和元(2019)年7月26日現在)

農薬の名称	希釈倍数 または使用量	使用方法	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分の名称	有効成分を含む 農薬の 総使用回数	RAC コード
トップジンM水和剤	300～500倍	灌注	仮植時及び 仮植栽培期	3回以内	チオファネートメチル	【*1】	F:1
ベンレート水和剤	500倍	灌注	育苗期	3回以内	ベノミル	【*2】	F:1
クロルピクリン錠剤	1穴当り1錠	【*3】		2回以内 (床土1回 以内、圃場 1回以内)	クロルピクリン	3回以内(床土1回以 内、圃場2回以内)	I:8B
クロピクフロー	20～30L/10a	【*4】		1回	クロルピクリン	3回以内(床土1回以 内、圃場2回以内)	I:8B
ソイリン	20～30L/10a (1穴当り2～ 3mL)	【*5】	作付の10～15 日前まで	1回	D-D クロルピクリン	1回 3回以内(床土1回以 内、圃場2回以内)	I:8A I:8B
バスアミド微粒剤	20～30kg/10a	【*6】	仮植又は定植 21日前まで	1回	ダゾメット	1回	F:M3 I:8F,H,Z

*1 4回以内(種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)。トップジンM水和剤とゲッター水和剤(炭疽病防除)はチオファネートメチルを含むため、両剤の使用回数は合わせて前述の回数となる。

*2 9回以内(種子粉衣は1回以内、苗根部浸漬は1回以内、育苗期の灌注は3回以内、本圃定植後の灌注は1回以内、散布は3回以内)

*3 土壌くん蒸(床土・堆肥)床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴当り1錠処理する。〈圃場〉「1穴当り1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。

*4 耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。

*5 耕起整地後、30cm間隔のチドリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。

*6 本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。

※ RACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター (Tel 028-626-3086) までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。



6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。
いつものチェック！ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！